

②総合的な学習・探究の時間

審議に当たり取り扱った事例

(※) 本項目で掲載している事例は、(WGでの議論の充実に資するため、) 今回の論点と関わる全国で行われている多様な取組の一部を参考として紹介しているものであるが、他にも多様な事例があるほか、民間事業者の事例も紹介している中であって、掲載事例を国として推奨する意図を有するものでないことに留意。

目次

多様な探究活動に関する事例 pp. 3-23.

特別活動との連携に関する事例 pp. 24-30.

社会との連携推進に関する事例 pp. 31-96.

多様な探究活動に関する事例



テーマ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例①

横浜市立戸部小学校

「目指せ!! D・H (※) 凧!!」(第4学年、70時間扱い)
(※)「D(努力)・H(ハッピー)」は単元の途中で子供と共に名付けた

テーマ
探究

創作系
行動系

実際に体験したり、名人の作品と比較したりする

<単元の概略>

小単元 1 (44時間)

- ・ダイヤ凧を作って揚げる
- ・名人の凧と比べて課題意識を高める

小単元 2 (13時間)

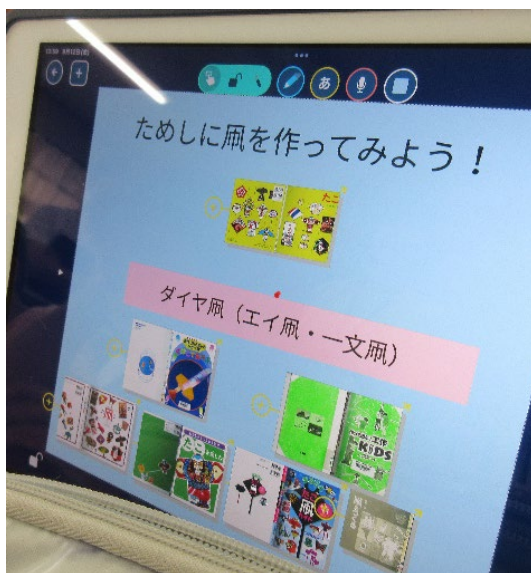
※国語(12時間)とも連携

- ・地域の願いを込めた凧を創作する
- ・凧揚げイベントの準備をする

小単元 3 (13時間)

- ・凧揚げイベントや凧作りの体験会をする

- ・ 児童一人一人が凧作りに興味・関心をもつために、実際に、児童一人一人が凧作りや凧揚げをすることから学習を始める。その際、楽しさのポイントや上手になりたい等の願いを言語化し、学級で共有する。
- ・ 児童の思いが高まった段階で、地域の団体と連携し、凧作り名人の作り方や凧揚げの動画を視聴して、児童一人一人が、自分の凧や凧揚げの様子と比較しながら、それぞれの課題を見いだす。
- ・ 児童一人一人が凧作りや凧揚げをするとともに、凧の魅力や凧文化の継承を願う人々の思いに触れ、地域の願いを込めた凧を創作する。また、こうした思いを多くの人に届けるために、イベントを計画する。
- ・ 凧あげイベントの準備過程やイベントでの地域の大人との交流等を通じて、昔から続く文化を大切に、地域の人々と一緒に楽しみたいという思いをもつ。



凧の作り方や揚げ方を調べたことの中から、興味・関心をもったことに取り組む



自分の凧と名人の凧を比べながら話し合い、共通点や相違点から自分の課題を見いだす



自分たちの凧揚げの様子を視聴しながら、自分の課題を見いだす

テーマ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例②

静岡市立中藁科小学校 「中藁科地域の環境と防災」 (第5学年、50時間扱い)

テーマ
探究

研究系
行動系

課題について各教科で学んだことを活かしながら予想する

<単元の概略>

小単元1 (25時間)

・藁科川の水生生物を調査しながら、藁科川との関わりを深める

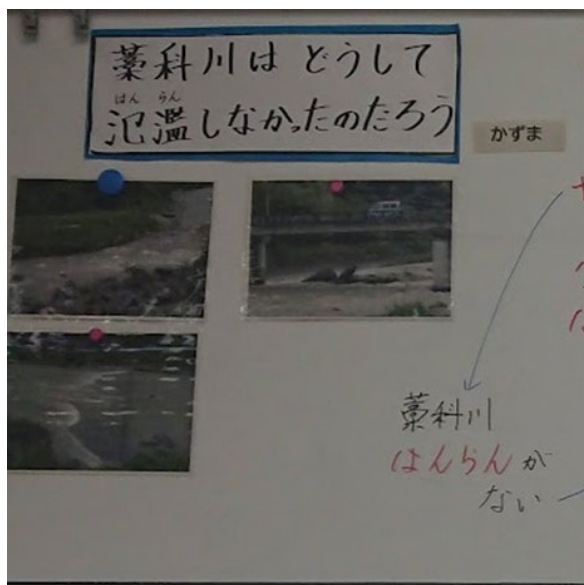
小単元2 (12時間)

・近年の異常気象から自然災害に関心をもち、藁科川の洪水の危険について調査する

小単元3 (13時間)

・中藁科地域住民の防災意識を高めるために、洪水の危険性について発信する

- ・水生生物調査から自分と藁科川との関わりを深めた後、大雨の影響でも、地域を流れる藁科川が氾濫しなかったという事実から、「藁科川はどうして氾濫しなかったのだろう」という課題を設定した。
- ・その際、各教科で学んだことを活かしながら、例えば川が蛇行していないという地理的な要因、治水工事があったという歴史的な要因、上流部の降水量が少なかったという自然（気象）的な要因を予想して、調べる内容や方法についてそれぞれの興味・関心を引き出す工夫を行った。
- ・こうした予想をもとに、児童それぞれが藁科川の治水工事の歴史や、河川の流れがどのように変化したのか等について調査を進めたり、実際にその場所を見学したりする等して、学びを深めた。



藁科川の写真や動画を視聴しながら、「どうして氾濫しなかったのだろう」と課題を設定する



歴史的な要因と関係がありそうだと予想し、昔の治水工事について地域の歴史書で調べる



地理的な要因と関係がありそうだと予想し、川の蛇行についてデジタルマップで調べる

テーマ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例③

静岡市立新通小学校

「みんなちがって みんないい」(第4学年、55時間扱い)

～今自分たちができることをやってみよう～

テーマ
探究

研究系
行動系

一人一人の調査結果を持ち寄り、それらを活用して更に調査を深める

<単元の概略>

小単元1 (22時間)

- 学校、家庭、地域にあるユニバーサルデザインを調査し、その工夫や共通点を話し合う

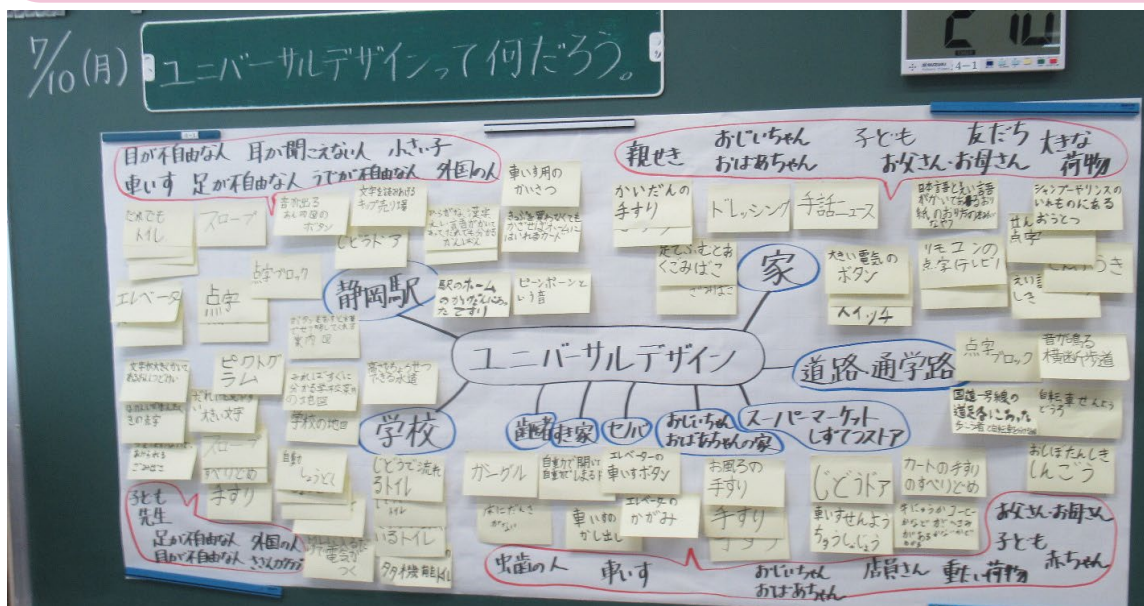
小単元2 (23時間)

- ユニバーサルデザインに関わる人々にインタビューするなどして、その意義を確かめる

小単元3 (10時間)

- ユニバーサルデザインの重要性について発信する

- 「みんなちがって みんないい」をテーマに、児童一人一人が学校、家庭、地域にあるユニバーサルデザインを調査していく。その際、学校、家庭、地域と調査範囲を広げながら、見つけた工夫を話し合うことで、ユニバーサルデザインの共通点に気付いていく。
- 日常生活で触れる様々な場所や施設、商品などから、スロープや手すり、ノンステップバス、点字やピクトグラムなどに気付き、それらを整理する中で、「誰でも使いやすい工夫」とはどのようなものかを考える。
- 「ユニバーサルデザインは何のためにあるのか。本当に役立つ物なのか」という課題意識から、ユニバーサルデザインに関わる人々に直接インタビューして、その必要性を理解し、成果物の掲示やイベントでの発表等を通じて、保護者や他学年の児童等にその重要性を発信していく。



ユニバーサルデザインについて調査したことを共有しながら、様々な場所にあることや、多様な人々が使っていることに気付く

様々な工夫があることに気付き、更に調査しようと興味・関心を高める

テーマ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例④

朝霞市立朝霞
第六小学校

「朝霞とわくわく！めざせすごろくデザイナー」

(第3学年、70時間扱い)

テーマ
探究

創作系

専門家に学び「すごろく」を制作し、相互に磨き合いながら地域の魅力を楽しく伝える

<単元の概略>

小単元1 (20時間)

・朝霞市の魅力を、実地調査や地域住民・市役所職員から情報を収集しまとめる

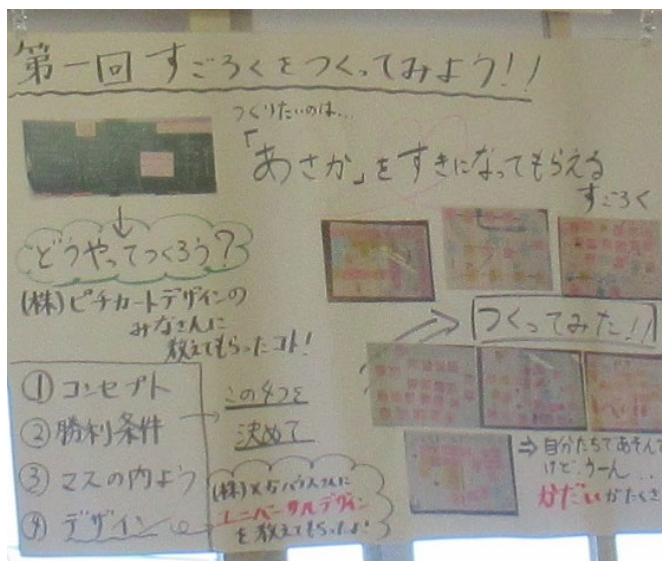
小単元2 (30時間)

・複数回ボードゲームの専門家が来校し、学びを活かして改善を繰り返す

小単元3 (20時間)

・地域の人々と完成したすごろくで遊ぶことを通して、朝霞の魅力を発信する

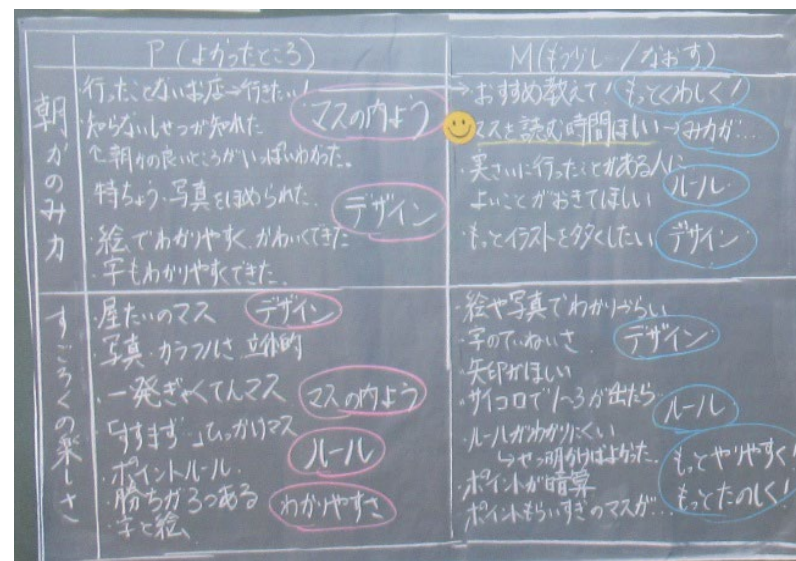
- ・ 地域の魅力を調査した上で、地域の方（幼児、高齢者、市役所職員、地域住民など）に楽しく興味をもってもらうために、すごろくを作成することとした。その際、すごろくなどのボードゲームを制作している専門家に、すごろく制作の4つポイント（コンセプト、勝利条件、内容、デザイン）を聞き取り、すごろくを作成する際に必要な知識を学んだ。
- ・ 4つのポイントが、自らのすごろくを分析的に捉えたり、子供同士で相互評価したりする観点となり、対話・協働が活性化した。
- ・ また、「朝霞の魅力」と「すごろくの楽しさ」の2つの視点で成果や課題を伝え合うことで、すごろくの本質を踏まえた完成度の高い制作物につなげ、「朝霞の魅力」を「楽しく伝わる」ように発信することができ手応えを感じることができた。



地域の魅力を伝えるすごろくを制作したことを専門家に伝える。専門家から、制作の4つのポイントを聞き取る



すごろく制作の4つのポイントを活用して、試行錯誤しながら、新たなすごろくを制作



自分たちが制作したすごろくが、朝霞の魅力やすごろくの楽しさが伝わったかを対話しながら分析し、改善点を見いだす

マイ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例①

渋谷区立神南小学校

「Happy Life★Happy School★Happy Me♡」

(第6学年、18時間扱い)

マイ
探究

研究系
行動系

体験から生まれたそれぞれの「問い」を対話を通じて広げ、課題の設定に生かす

<単元の概略>

小単元 1 (5時間)

・「健康」をテーマに、「ものづくり、芸術」「運動、人物」「食」「生活習慣」の4つの分野で直接体験をする

小単元 2 (13時間)

・体験から健康に関わる「問い」を見出し、グループで意見交換する
・問いを分類する等しながら興味を広げ、課題を設定し解決していく

- ・「健康」をテーマに「①ものづくり、芸術」「②運動、人物」「③食」「④生活習慣」の4つの分野での直接体験を振り返って、子供一人一人が「消費カロリーはどうやって測定するのか?」「健康ダンスの効果を確かめたい」などの問いを付箋紙に書き出す。
- ・こうした「問い」をグループや学級で伝え合うことを通して、「どうしてだろう?」「こんなことをしたい」などと、健康についての疑問を広げたり、興味・関心を高め合ったりするとともに、問いを4分野ごとに整理したり、「調べたいこと」「取り組みたいこと」などに分類したりして、子供一人一人が興味・関心に基づき課題を設定するための見通しをもてるようにした。



小単元1の直接体験を振り返りながら、疑問や取り組みたいことを付箋紙に書く



グループで付箋紙に書いたことを共有しながら分類し、興味・関心を広げたり高めたりしたことを意見交換する



学級全体で付箋紙に書かれた多くの「問い」を共有し、自分の取り組みたい課題を設定することに見通しをもつ

マイ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例②

盛岡市立杜陵小学校

「なりたい自分になるために」(第6学年、70時間扱い)

マイ
探究

研究系
行動系

興味・関心の広がりや深まりに応じて、自分で探究計画を見直す

<単元の概略>

小単元1 (11時間)

- 自分の好きなことを起点にして探究テーマを設定する

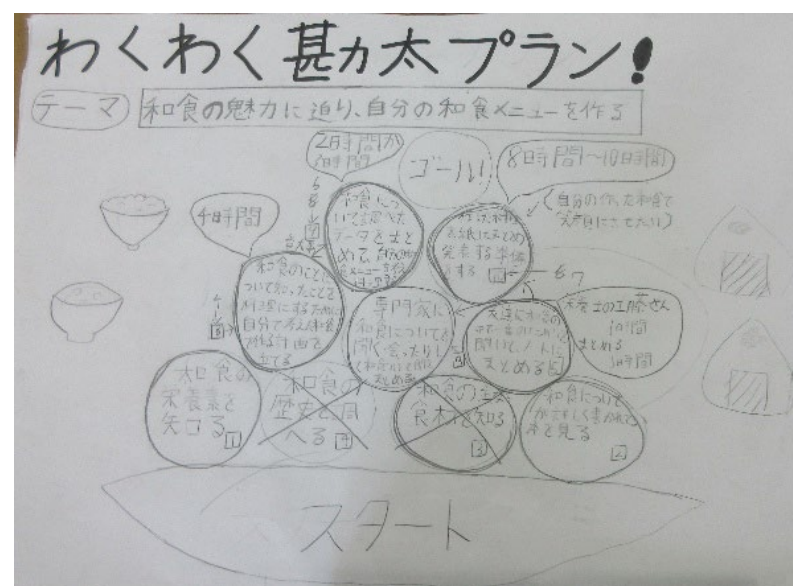
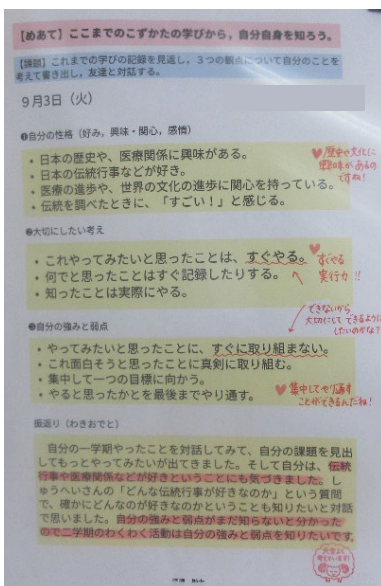
小単元2 (52時間)

- 取り組んだことを友達や専門家に説明する
- 取組状況や興味・関心の変化に応じて探究テーマを修正する

小単元3 (7時間)

- 探究テーマの成果をまとめ、発表会を行う

- 自分の好きなことを起点にして探究テーマを設定するにあたり、**ある児童は自分の興味・関心の対象である「健康」「歴史」「伝統」を起点として**、家族を健康で笑顔にする和食メニューを作ることを探究テーマとした。
- また、探究テーマについて取り組んだことを計画書や写真などを使いながら、**友達や専門家に説明する機会**を設けた。その際の「いつ、料理するのか」「旬な食材を取り入れるとおいしくなる」「自分で作って確かめることが必要」などの対話から、**旬の食材に関心をもち、探究の計画を変更することとし**、旬の食材を調査することと、それを使ったメニューを作って試食することとした。



自分を分析的に振り返ることで、自分の好きは「健康」「歴史」「伝統」と気付く

実際に取り組んだことを専門家と対話する中で、新たな興味・関心を引き出される

探究の計画を見直し、旬の食材を調査することやそれを使ったメニューを作り試食することにした

マイ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例③

気仙沼市立
面瀬中学校

「海と生きる気仙沼～未来のために私たちができること～」

(第1学年、50時間扱い)

マイ
探究

研究系

自分たちが住む気仙沼をテーマに、自ら設定した課題について探究したことを発表

<単元の概略>

小単元1 (13時間)

- ・自分たちが住む気仙沼について、海産物や環境等の観点から調査しまとめる

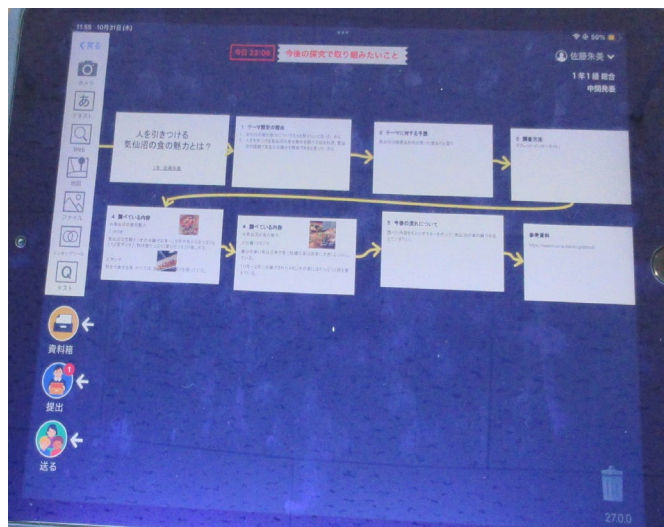
小単元2 (15時間)

- ・漁業関係者、港湾関係者へのインタビューを通して、自身で設定した課題に基づきスライドを作成し中間発表する

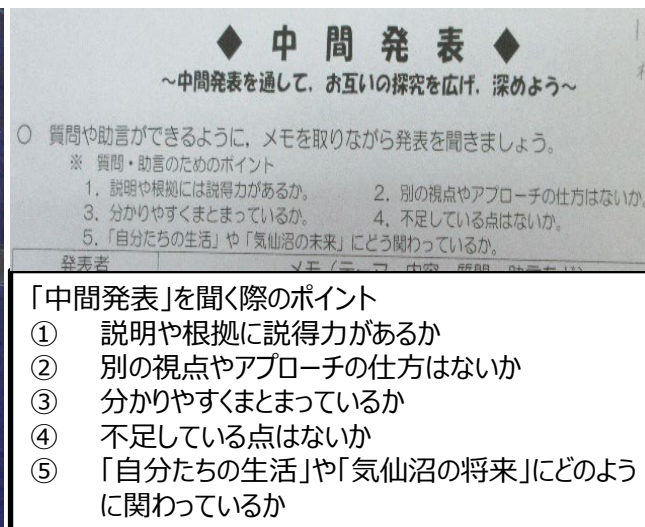
小単元3 (22時間)

- ・探究の成果を職業と関連付けてまとめる

- ・ **気仙沼について**、震災後の地形・海・漁港の変化や、防災・減災の取組等、様々な視点から調査し、海の恵み、海の仕組み、海を生かす視点でまとめ、**自分の興味・関心に応じた課題を設定**する。
- ・ 更に、実際に海に関連する施設を見学したり、乗船体験したりするとともに、海に関連する人にインタビューするなどの**体験を通じて情報を収集し、考えを深める**。
- ・ 自身で設定した課題について探究したことを振り返りながら、中間発表を行う。その際、生徒は「中間発表を聞く際のポイント」を参照し、改善しながらスライドを作成し、**自己評価、相互評価を繰り返しながら、自身の関心をより深め、次の探究活動に向かっていく**。



生徒一人一人が課題を設定し、調査したことをスライドにまとめる



「中間発表」を聞く際のポイント

- ① 説明や根拠に説得力があるか
- ② 別の視点やアプローチの仕方はないか
- ③ 分かりやすくまとまっているか
- ④ 不足している点はないか
- ⑤ 「自分たちの生活」や「気仙沼の将来」にどのように関わっているか

「中間発表」を聞く際のポイントはスライド作成時にも参照



中間発表では、ポイントを踏まえながら、自己評価・相互評価を実施10

マイ探究で一人一人の興味・関心を引き出す工夫例④

静岡県立ふじのくに
国際高等学校

「地域で働く人を紹介しよう」(第1学年、27時間扱い)

マイ
探究

行動系

地域で働く人の生き方や職業観を紹介する記事を執筆する

<単元の概略>

小単元1 (10時間)

・通学校の地域で働く人について
テーマを設定し、インタビューする
ことを通じ、記事の内容を精選
しながら執筆することを学ぶ

小単元2 (7時間)

・執筆内容について、テーマとの関
連について過不足を見だし、
再度インタビューする

小単元3 (10時間)

・記事の相互発表を通じて改善
しながら完成させる

- 様々な地域から生徒が入学することを踏まえ、**地域に関心をもったり、つながったりするために、地域で働く人の魅力を紹介することをテーマとし、その成果物のイメージを共有**することで、単元全体の学習過程のイメージをもつ。
- 紹介記事の執筆にあたり、構成や必要な内容などについて学び、収集するための質問項目を準備して、地域で働く人にインタビューを実施する。
- インタビューを基に実際に記事を書き、構成の在り方や内容の精選の観点から、自分の記事を照合させ、よさや改善点を見だし、さらに調査したり記事を修正したりする。**
- 記事で伝えたいテーマに迫るため、**他の生徒と記事を読み合い、発表し合うことを通して、よさや改善点について確認しながら、記事を完成させる。**



<基本ルール>
◇ 絵で伝わり、人の魅力が伝わるように自由に共同編集してください。
◇ 本文は500-800字程度にまとめる。
◇ フォント(字種、サイズ、色)、罫線(白)は変えない。
◇ 編集時には、考えたこと、成長したこと、印象的だったこと、こうすれば良かった、など
◇ 提出期限 2/18(日)

成果物のイメージを共有することで
見通しをもつ



手本の記事を分析的に捉え、必要な情報があることを理解する

<解答例> これが正解ではない。一例。

- ① あなたなら、何を伝えたいか? 「軸」となるメッセージは? → [経営者としての情熱を伝えたい! (パン屋や地域への想い)]
- ② 情報の取捨選択をしよう。(必要となる線を線で引いてみる) → 赤ペン
- ③ 次の取材でさらに聞きたいことは何だろうか? (欲しい情報) → 青色吹き出し

～ ある班のインタビュー内容～ (パン屋の社長さん 1200字)

① 私は〇〇市でパン屋を営む△△△です。ここで働くことになったのは、父親がこのパン屋の創業者で、子どもが私しかいなかったため、私が継ぐことになったからです。

② 仕事のやりがいは、パンを売っているとき、お客様から自分の耳で評価を聞けることです。仕事をするうえで気を付けていることは、ホコリや髪の毛など異物が混じらないようにすることです。夏場は特に気温が高いため、湿気ないように温度の調整にも気を使っています。新しいパンの開発は、問屋さんに案を聞いたり、社員と相談したり、それぞれの好きなものを入れたりしてできています。実際に店頭にならべてみて、その商品が売れれば残るし、売れなければ廃棄になります。私の目標は、お客さんに作ってほしいといわれたもの、お客さんが食べているようなもののできる限り作ることです。→ お客様からどんな要望で、どんなパンをつくったのか?

地域で働く人にインタビューした内容と、記事とするために必要な情報が得られているかを照合し、よさや改善点を見いだす

デジタルを活用したマイ探究の事例

小学校

「ドット絵を用いたゲーム制作」(第5学年、4時間扱い)

マイ
探究

創作系

コンピュータの仕組みを理解するためのゲームづくり

<単元の概略>

事前準備(1時間)

- ・習熟度に応じたチーム分けを行い、チームごとに本単元の内容や必要な作業・手順を確認

創作活動(2時間)

- ・ドット絵のキャラクターづくり、ゲーム作品づくり

まとめ(1時間)

- ・学習内容のまとめ

- ・クラスには、学校外でプログラミングに取り組んでいる児童が一定数いる一方で、初めてプログラミングに触れる児童もいるため、習熟度に応じて3つのチーム（①自分で自由につくる、②プログラミングツールのガイドを見ながらゲームをつくる、③教師や他の児童と協力しながらゲームをつくる）に分かれ、自分のレベルに合わせて好きなやり方でゲームづくりに取り組む。
- ・デジタルで情報を扱い表現することを目的に、コンピュータが画像情報を表示する仕組みを踏まえてプログラムを組み、自分で描いたキャラクターを使ったゲームを作成する。
- ・児童はキャラクター制作に夢中になり、こだわりを見せていた。また、自ら学んだことを表現することを通して、学習内容の定着を促すことができた。



プログラミングに不慣れな児童は、支え合いながら作品作りを進めた



経験のある児童は、プログラミングツールのガイドを見ながら作成



作品例：キャラクターを自由に表現している児童が多く見られた

「節目としての探究」の取組事例①

小学校

「自ら見つけた課題を解決する卒業制作」(第6学年、7時間扱い)

マイ
探究

創作系

プログラミングツールを用いて身の回りの小さな問題解決を試みる

<単元の概略>

前提整理 (1時間)

- ・課題設定と対応方針の検討

創作活動 (5時間)

- ・プログラミングの試作と評価・改善の仕組みの学習

共有と振り返り (1時間)

- ・作品の相互評価・改善と発表、学びの振り返り

- ・卒業を控えた6年生の児童が、これまで学んできた知識を活用したり、必要なことを改めて自ら学んだりしながら、自分たちにとって意味のあるデジタル作品の制作に挑戦した。児童自ら課題を見つけ、処理の自動化や動的な表現を含むコンテンツの開発等に手軽に取り組むことができるツールを用いて、それぞれがプログラムを試作し、クラス内で互いにフィードバックし合うことで試作品を改善し、最後に発表した。
- ・児童は新たな価値を作り出す経験を通して、デジタル時代のものづくりのプロセスや、デジタル社会における価値を捉えることができた。



解決したい問題を話し合い、コンピュータの特性と関連付けて整理する



問題解決のためのプログラムを考え、試行錯誤を繰り返す



プログラムを互いに評価し、改善する

「節目としての探究」の取組事例②

桐蔭学園小学校

「ゼミ形式の個別探究（マイ探究）」

マイ
探究

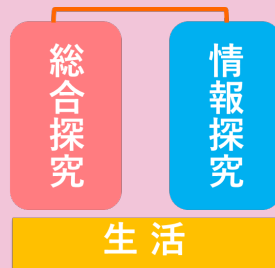
研究系
行動系

毎年度後半に行い、最終学年の卒業時に集大成となる発表の機会を設定する

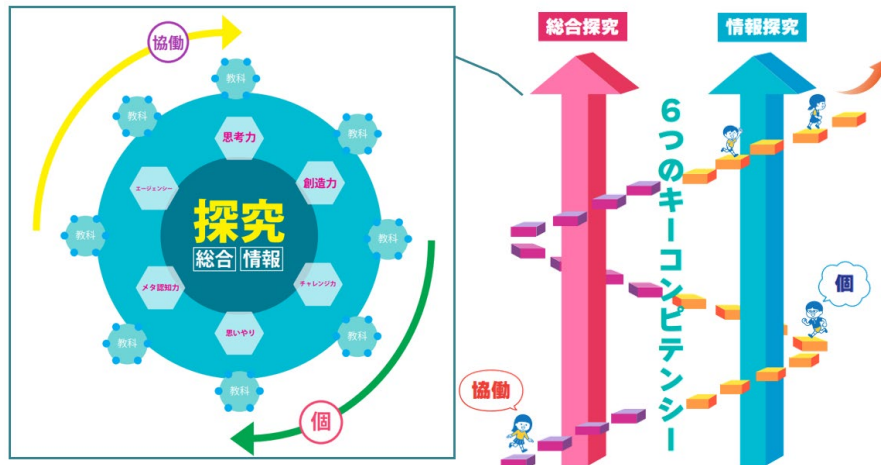
- ・「総合探究」と「情報探究」を二本柱として展開。学校が掲げる6つのキーコンピテンシーの育成も目指す。

「総合探究」

- ・ 前期は学年とクラスを基本に探究を進める。共通テーマは多様性で、3年生から多様性に関する小テーマを学年に応じて設定し、自分とは異なる立場や考え方に触れ、他者を理解するとともに、自分の考え方にイノベーションを起こすことを目指す。6年生は集大成として、自分が身近な社会にどのように貢献できるか「私たちがつくる多様で豊かなみらいのまち」を提案する。
- ・ 後期は縦割りでグループを編成し、ゼミ形式で個人探究を実施。毎年、各学年の最後に発表の機会を設定し、特に6年生は小学校で取り組んできたことの集大成として個人の興味・関心に基づき取り組んだ内容を発表する。



学校が目指しているコンピテンシー育成と「総合探究」「情報探究」の関係



3年生～6年生までの「総合探究」の計画

		1学期（4月～7月）	2・3学期（9月～3月）
総合的な学習の時間	6年	学年・クラス・グループでの探究 みらいのまち	個人での探究 児童はゼミに所属し、自分でテーマを決めて、探究する。 約11のゼミ（3～6年合同）
	5年	福祉（外国人、貧困など）	
	4年	福祉（高齢者）	
	3年	パラスポーツ（障がい者）	

「節目としての探究」の取組事例③

埼玉大学教育学部
附属小学校

「卒業研究」(第6学年、35時間扱い)

マイ
探究

研究系

これまでの探究を振り返り、自分の興味・関心に応じて卒業研究のテーマを設定する

＜単元の概略＞

小単元1(13時間)

・自分の興味・関心に応じて、卒業研究テーマを設定し、これまでの学習の振り返りや必要な情報収集を行う

小単元2(11時間)

・途中経過を共有しながら、改善に向けて取り組む

小単元3(11時間)

・卒業研究の資料をまとめ、発表し、これまでの探究を振り返る

- ・ 1年間を通して、自ら問いをもち、課題として設定したことを調査したり、実際に取り組んだりし、3学期には全校児童、保護者に向けて発表する。
- ・ 個人研究テーマは、自分の興味・関心に基づいたもの、身近な生活に関わるもの、地域や社会に向けたものなどを子供が選び決定する。その際、必要に応じて地域団体等への協力も依頼する。
- ・ 夏季休業中の保護者面談等で、探究的な活動の進捗状況を保護者と共有し、家庭における協力支援を依頼し、学校・家庭・地域全体で児童の探究を支える。



卒業研究を見やすくまとめるとともに、実物を使いながら、実際の取組をプレゼンする



聴衆の質問に答えたり、意見を聞いたりするやり取りを適宜行いながら、自身の考えも深めていく

卒業研究課題
1番当たる星座占い教えます!
獣医師になりたい僕がのぞむ動物愛護～川口市動物保護団体の取材より～
富士山と世界遺産のつながり
うさぎの上手なお世話の仕方
イラストはどのような環境で書くかと効率よくかけるのか
チキウにやさしい!?エコなTシャツリメイク術
虹 ～でき方や仕組みについて～
ハムスターのハッピーライフ 小さなハムの魅力
夢がない＝最強説!!～夢が決まっていない私だからこそできる卒業研究～
法律は影のヒーロー?私たちを守るルールのは正体

児童一人一人が卒業研究課題を設定し探究する。毎年の取組であるからこそ、下級生も興味・関心を高める

「節目としての探究」の取組事例④

高松市立牟礼小学校 「自分の生き方をみんなに伝えよう」 (第6学年、20時間扱い)

マイ
探究

研究系
行動系

地域の偉人や地域を支える人々から学び、これからの生き方を考え「自分宣言」をする

<単元の概略>

小单元1 (10時間)

・地域の人から学んだことの全校児童への発信をきっかけとして、これからの自分の生き方について考える

小单元2 (5時間)

・自分の生き方に取り入れたいことについて友達と意見交換する

小单元3 (5時間)

・1年間の学びを生かして「自分宣言」を作って、卒業式で発表する

- ・ 4月～12月の小单元で、地域の偉人や地域を支える人々について調査したり、自分との関わりについて考えたりし、それをまとめる活動を通して、子供一人一人がこれからの自分の生き方について考え、他の児童にも伝えようとする。
- ・ その際、調査したことを整理・分析して、自分に直接関わることや将来大切にしたいことと関連付けながら、これまでの学校生活を通じ、各教科等で学習したことを活用して、分かりやすくまとめる。
- ・ 卒業前の「自分宣言」の作成の過程において、自分の生き方に対する意識や行動が、地域の偉人や地域を支える人々について探究的に学んだことを通じ、変容する姿が見られた。



地域の人から学んだことを、各教科等で学習したことを活用して分かりやすくまとめ、全校児童に発信



発表をきっかけにして、自分の生き方を考え、友達と意見交換



「自分宣言」を作成して、卒業式で発表

「節目としての探究」の取組事例⑤

埼玉県立
伊奈学園中学校

「卒業論文」(第3学年、70時間扱い)

マイ
探究

研究系

「国際」「科学」「表現」の分野から選び、探究活動を通して卒業論文を書く

＜単元の概略＞

小単元1 (15時間)

・これまでの学習を踏まえ、自身の関心に基づくテーマを選択し、「問い」を設定し、深める

小単元2 (20時間)

・興味・関心に応じた研究テーマを設定し、先行研究を調査する

小単元3 (35時間)

・研究テーマについて、発表等を通じて改善しながら、卒業論文としてまとめる

- ・生徒一人一人が、1・2年次で経験した社会課題を解決する学習を通して広げたり深めたりした興味・関心を踏まえ、卒業論文のテーマとして3つの分野「国際」「科学」「表現」から、1つを選択する。
- ・例えば「国際」においては、貿易や開発などを理解するための教材や新聞記事を使って、「問い」を作成し、①経済・貿易、②社会、③自然・エネルギー、④意志決定・政治の4つの視点で分析。
- ・過去の卒業生の論文テーマで見られるキーワードを参考にして、生徒一人一人が研究テーマを設定し、先行研究やフィールドワークで調査する。
- ・10月下旬頃に、研究テーマについて中間発表を行い、研究の目的、先行研究との関連、調査活動の整合性や、探究の広がりや深まりに向かうような意見交換を行いながら、10～20ページの卒業論文を完成させる。



共通する「問い」をもつ生徒同士で意見交換しながら分析しよう

卒業レポート テーマの例

研究主題	研究のキーワード (3つ)
1 犯罪者の人権を守る必要性を考える	死刑制度、裁判員制度、人権
2 シリアの脆弱な人々が生まれるのはなぜか	シリア難民、貧困、歴史
3 宗教とジェンダー意識の関係	ジェンダー・キリスト教、影響
4 外国人児童生徒への教育支援をめぐる現状と今後の方策	不就学、教育格差、支援
SDGsが達成可能かどうか	
5 一先進国の消費行動から考える	先進国 (G7) フェアトレード フィンランド
6 アフリカ東部のソマリアの乳幼児を飢餓から救うには？	飢餓 ソマリア 支援
国際協力が援助国と被援助国の双方に及ぼす影響とは？	
7 一貧困問題の解決に着目して	貧困 開発途上国 共通利益
8 スポーツの可能性	・スポーツ×開発 ・SDP
9 女性教育の現状及び教育差別について	・デボルターレ
10 先進国と開発途上国の教育格差 (日本と南スーダン)	男女差別 教育 開発途上国
11 SDGsが達成可能かどうか	・教育格差 ・南スーダン
12 女性問題の現状と、問題解決に向けてできること	・開発支援 (教育)
13 持続可能なエネルギーは本当に持続可能なのか	・フィンランド ・電力供給源 ・日本
14 再生利用の方法 - 「アップサイクル」は進むのか？	女性差別、歴史、現状
15 持続可能な観光地づくり	持続可能、発電、洋上風力
	再生利用・アップサイクル・ゴミ問題
	観光、SDGs、沖縄県

卒業レポートのキーワードや内容を参考にして、先行研究調査やフィールドワークをする

「節目としての探究」の取組事例⑥

群馬大学共同教育
学部附属中学校

「卒業論文」(第3学年、10時間扱い)

マイ
探究

研究系

これまでの探究を振り返り、自分の興味・関心に応じて卒業論文をまとめる

<単元の概略>

小単元1(3時間)

・先輩たちの卒業論文を読み解き、構成や全体の見通しをもつ

小単元2(4時間)

・自身のこれまでの学習や興味・関心に応じて論文のテーマを決定し、調べたり分析したりして論文を書く

小単元3(3時間)

・友達と卒業論文について感想を伝え合う

- 先輩たちが作成してきた卒業論文を参考にして、卒業論文として必要な構成、内容、まとめ方について学び、生徒一人一人が設定した課題に基づいた調査結果等を基に、自分の考えを論文形式でまとめる。
- その際、「この探究を深めることにどのような意義があるのか」や、「この成果を誰に伝え、理解し、共有したいか」等の目的を明確にする、探究的な学習の過程を活かした構成とするなど、これまでの総合的な学習の時間で学んできたことを活かすようにする。
- また、各教科等で学んだことを活かし、事実、意見、引用を明確に区別することや、図や表、写真、グラフなどを効果的に活用するなどして、論文をまとめる。



興味・関心をもったことについて調査したことをもとに意見交換しながら、論文テーマを決定



地域の木材資源を活用した幼児向けのおもちゃとポスターを作成し、木材に対する意識の変化を検証



探究活動を論文形式でまとめる

「節目としての探究」の取組事例⑦

「これからの社会を生きる私」(第3学年、50時間扱い)

マイ
探究

行動系

地域や実社会と関わる3年間を振り返り、自分の将来への見通しをもつ卒業探究

<単元の概略>

小単元1(13時間)

・これまでの総合を振り返り、自分がやりたい探究活動を決める

小単元2(27時間)

・テーマごとに探究チームを作り、社会貢献活動をしたり、その成果を発表したりする

小単元3(10時間)

・探究活動を在校生や保護者に向けて発表したり、成果報告書を作成したりする

- ・ 総合的な学習の時間を「あさひのプロジェクト」として、**3年間系統的に探究活動を行う**。1年次は「身近な社会貢献に関わる活動」、2年次は「自分が大切にしたい生き方と関連する社会体験活動」、3年次は「地域や企業の方と連携・協働する社会貢献に関わる活動」をテーマとして設定し、**それぞれの活動を通じて自己の生き方について探究を深める**。
- ・ **3年次では、具体的にやってみたい活動ごとのテーマを設定し、探究チームを作る**。探究チームで**地域の施設や企業を訪問して情報収集したり、自分たちで考えたことを実践したり**することを通じて、**課題解決にむけて繰り返し取り組む**。
- ・ それらの活動を卒業探究としてまとめ、発表する。発表会での意見交換で、**これまでの取組の成果や可能性に改めて気づき、自己の生き方について考えを深めることを継続していく**。



具体的にやってみたい活動をプレゼンして、探究チームを編成する



地域の動物園の活性化について考えたことを、幼児との交流等を通じて実践する



地域の食材を使った食品開発。検証結果としてまとめるために、保護者にプレゼンしながら試食してもらう

「節目としての探究」の取組事例⑧

千葉県立長生高等学校

「卒業研究」(第3学年、7時間扱い)

マイ
探究

研究系

2年次に作成した論文を目的に応じて改善する

<単元の概略>

小単元1 (1時間)

・2年次の論文を読み返し、全体の構成や主張や根拠の整合性などを確認する

小単元2 (1時間)

・探究活動が大学入試に生かせるかを調査し、まとめる

小単元3 (5時間)

・自分の将来や進路に生かせるように、論文の内容を改善する

- 探究活動を振り返るために、**2年次に仕上げた論文について、全体の構成や主張やその根拠の整合性などを確認**する。その際、**教師や同級生からのフィードバックを受け取り改善点を見付けたり、自己の在り方生き方と関連させて読み返したり**する。
- 探究活動を入試に生かせるかどうか、一般入試以外の入試形態や受験したい学部学科をもつ大学を幅広く調査して整理する。
- 自分の**将来や進路に生かすために、論文を改善**する。その際、ポスターやパワーポイントを作成し、下級生に発表すること等を通じて、**実感のこもった言葉で考えを相手に伝えることの大切さを実感**する。

5 探究活動を深める

5.1 探究活動の振り返りをしよう

まずは1、2年生で実施した長高メソッドの探究活動のうち、2年次に仕上げた論文を振り返ってみましょう。そのままの状態でも、どこに出すにしても自信を持てますか。大学進学や、その先の仕事へ繋がる可能性を促めた論文です。何事も見直しは大事ですね。次のような手順で論文を読み返してみよう。

- 全体の構成を確認する
論文の構成が論理的で一貫しているかを確認します。序論、本論、結論が明確に分かれているか、各セクションが適切に繋がっているかをチェックしましょう。この時に、誤字・脱字もチェックしてみてください。
- 主張と証拠の評価
主張が明確であり、適切な証拠によって裏付けられているかを確認します。証拠が信頼できるものであるか、他の研究と比較してどうかを評価します。他の研究との比較が難しい場合は、他に根拠となるデータを集められないか検討してみよう。
- 批判的思考を取り入れる
自分の主張に対する反論や異なる視点を考えているか確認します。これにより、論文の説得力が増します。本当にそうだろうか、という視点をもって読み返してみよう。
- 多角的に見る
複数の情報源からデータを収集し、偏りがなければ確認します。異なる分野や視点からの情報を取り入れることで、論文の深みが増します。
- 文法と表現のチェック
文法や表現に誤りがないか、専門用語が適切に使われているかを確認します。必要に応じて、第三者、例えば保護者の方に読んでもらったり、友人同士お互いに校正を依頼しあったりするのも良い方法です。誤字・脱字のチェックは済んでいるはずなので、スムーズにできますね。
- フィードバックを受ける
教師や同級生からフィードバックを受け取り、それを基に改善点を見つけよう。外部の視点からの意見は非常に有益です。2年次の論文の完成時に、ゼミの担当の先生からフィードバックがされていると思います。今回は友人に読んでみてもらうとよいでしょう。

2年次の論文を手掛かりにした探究活動の振り返り

5.4 探究活動が入試に生かせるのか調べてみよう

まずは1、2年生で実施した長高メソッドの探究活動が、そのまま入試に生かせるケースがあるかどうかを調べてみよう。
たとえば、筑波大学の人文学類の推薦型選抜の入試の要件には以下のようなものがあります。

人文学類

(2) 希望する主専攻分野(哲学、史学、考古学・民俗学、言語学)の内容に深い関心を有し、当該分野に関連する教科・科目において優れた能力を持つ者(それらを証明する資料があれば適宜添付すること)

この要件は主専攻分野が異なるが、筑波大学ではすべての学類で示されています。その一部を下に抜粋します。

社会学類：社会学(社会学、法学、政治学、経済学)に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者
教育学類：教育についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会活動等においてすぐれた実績を有する者
生物学類：生物界や生き物の仕組みに関連する広い興味を有し、生物や数学に優れた能力を持ち、かつ、生物の学習や実験に意欲的で生物に関連する自主研究や国際生物学オリンピック(国内予選も含む。)等で実績を有する者
数学類：数学において、特に優れた能力を持つ者
工学システム学類：数学と理科の能力が卓越しており、論理的な思考力とその表現力に優れている者。工学の分野に強い関心を持ち、工学について熱意を持って勉強しようと考えている者。

このような入試要件であれば、これまでに行った課題研究のレベルがある程度よいものならば、それを証明する客観的な資料として活用することも可能になります。

また、福井県立大学では、生物資源学科 総合型選抜「探究力発掘」が令和7年度より全国規模で募集することになった。これは、探究活動、部活動、自宅での研究活動について評価し、研究成果がいようと対面でのプレゼンテーションで高校などでの研究への取り組みをアピールする入試です。

他にも探究活動の成果物を入試の評価に取り入れている大学がないか、インターネットを利用して調べてみましょう。特に、自分が第一志望にしている大学については一般入試以外の入試形態や、自分が受験したい学部学科を持つ大学を広く調べてみることも必要です。

Exercise

探究活動などを生かせる入試制度を調べてみましょう。

探究活動が入試に生かせるかを調査して整理

◆長高メソッドⅢ WS 探究活動を進路実現に生かす

3年 組 番 氏名

Exercise

探究活動などを生かせる入試制度を調べてみましょう。自分の志望する大学や志望する学部学科を持つ大学をインターネットなどを使って広く調べてみましょう

大学名
学部学科名
入試方式

大学名
学部学科名
入試方式

大学名
学部学科名
入試方式

大学名
学部学科名
入試方式

自分の将来や進路に生かすために論文をブラッシュアップ

総合×学校図書館の取組事例①

福山市立鞆の浦学園

探究成果物のアーカイブ

地域情報コーナーや成果物の保存・公開を通じて、学校図書館を探究の拠点として機能させる

<学校図書館の特色>

- ・探究的な学びにおける情報収集の優先順位を、①体験活動、②図書、③インターネットと設定
- ・図書による情報収集を行う際には、児童生徒が自分で選書することを重視
- ・そのため、図書館内に地域の情報や児童生徒の探究成果物を閲覧できるようなスペースを設置している

- ・ 学校図書館に地域の情報を集めたコーナーを特設し、その中に児童生徒の探究成果物を冊子にして保管し閲覧できるようにしている。
- ・ 前期課程（小学校）では、この成果物を活用し、地域をテーマにした探究を実施。
- ・ 後期課程（中学校）では、生徒一人一人の興味・関心に応じた課題を基にした自己探究を実践し、探究の過程における情報収集や、最終的な成果物を公開する場として活用。
- ・ こうした取組により、地域の情報とともに、これまでの先輩の探究の成果から情報を収集することが可能となり、質の高い探究に寄与。また、自分自身の探究の成果が、学校図書館に保管され、後輩たちに活用されることから、質の高い探究の成果物を作成しようとする意欲につながっている。



学校図書館内に地域の情報を集めたコーナーを特設



児童生徒の探究成果物を冊子にして保管するとともに、閲覧・貸出可能



過去の卒業論文は蔵書検索可能

総合×学校図書館の取組事例②

青翔開智中学校・高等学校

司書教諭による探究支援

校務分掌に図書館スタッフが参画し、探究における情報収集やプロセスの可視化を支援する

学校図書館の役割

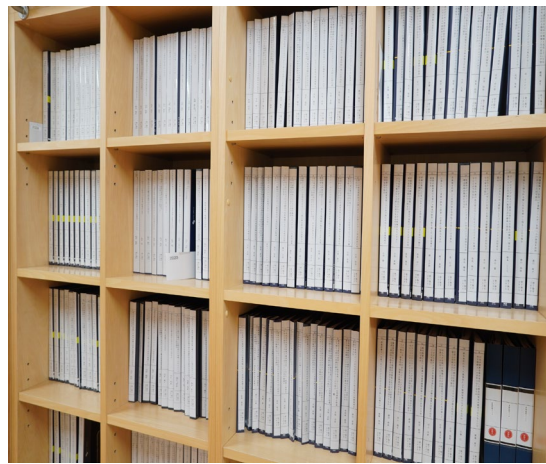
- ✓ 校内の探究推進部門（探究部）に学校図書館スタッフ（司書・司書教諭）が所属。
- ✓ 情報活用能力を育成する機関として、学年を越えて総合における年間計画の策定から授業実施までを支援。
- ✓ 各教科の授業で行う探究的な学びにおいても生徒の学習実態や学びの段階に即した資料・情報を提供。
- ✓ 校舎の中心に位置し、複数の教室とシームレスにつながることで、人と人、人と情報が出会い、生徒の主体的な問いを生む工夫をしている。

司書教諭の役割

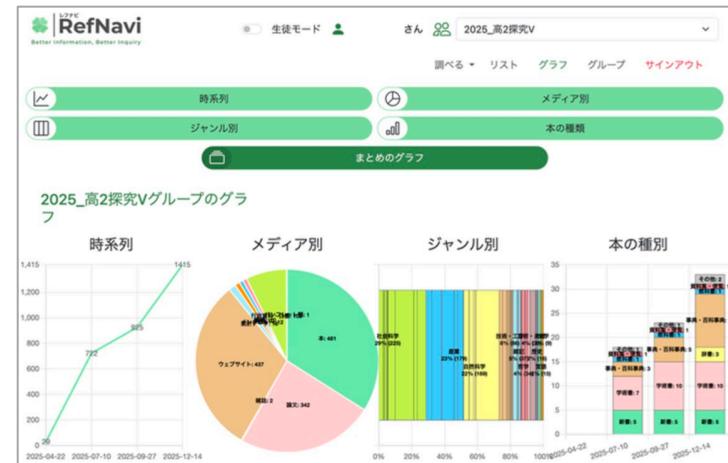
- ✓ **情報収集・リテラシー育成の直接指導**
学校図書館の本のみならず、オンラインデータベース等の電子資料を含む多様な資料・情報の探し方、情報の整理・分析手法を支援する。
- ✓ **「総合」と各教科の橋渡し**
教員と協働して授業プログラムを共同設計。「総合的な探究の時間」と各学年・各教科の中で行われる探究的な学びの実践を可視化し接続する。
- ✓ **探究プロセス（過程）の可視化**
最終的な成果物だけでなく、生徒が「どう情報を集めて思考・試行したか」という探究の過程の記録と可視化を支援する。



校舎の中央に位置し学びの接続と拡大を推進



生徒の探究の成果(論文)を図書館資料として蓄積し提供



情報収集の過程を可視化・共有し、教員と協働して学びの見取りと支援を実施

総合×学校図書館の取組事例③

山崎学園富士見中学校高等学校 Learning Hubとしての学校図書館

学校図書館を学びを支える基盤として位置付け、探究的な学びを促す環境を整備

学校図書館の役割

学校図書館を“Learning Hub”と名付け、学びを支える基盤としての位置付けを明確化。

✓ 授業に合わせて、必要な情報源を準備

授業のテーマに合わせて、図書、雑誌、新聞、データベース、Webリンク集を提供。公共図書館の団体貸出も活用し、必要な資料を用意。

✓ 探究的な授業を日常的にできる空間を提供

可動式の机・椅子等により協働や対話を促進し、思考の可視化や成果の共有を支える学習環境を整備。

✓ 探究の成果物を保存

在校生がいつでも参照できる資料として、紙媒体や電子媒体として探究の成果物を蓄積。

司書教諭の役割

✓ 6カ年一貫の探究的な学びを支援

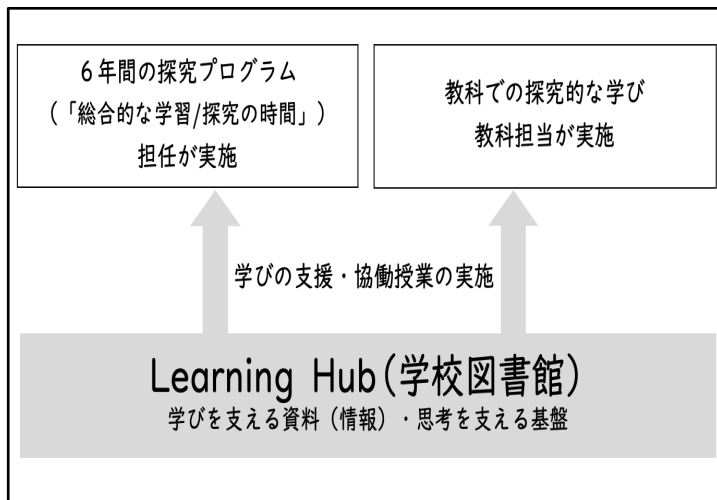
探究プログラムの設計に関わることで、6カ年を見通した指導が行われるよう支援。

✓ 情報活用能力を育成する指導を実施

調べ方、情報の信頼性の見極め方、出典の書き方や著作権の理解などについて、授業内容に応じた指導・支援を行うとともに、探究プログラムと各教科の学びをつなぐ支援を実施。

✓ 情報活用能力の育成を学校全体で推進

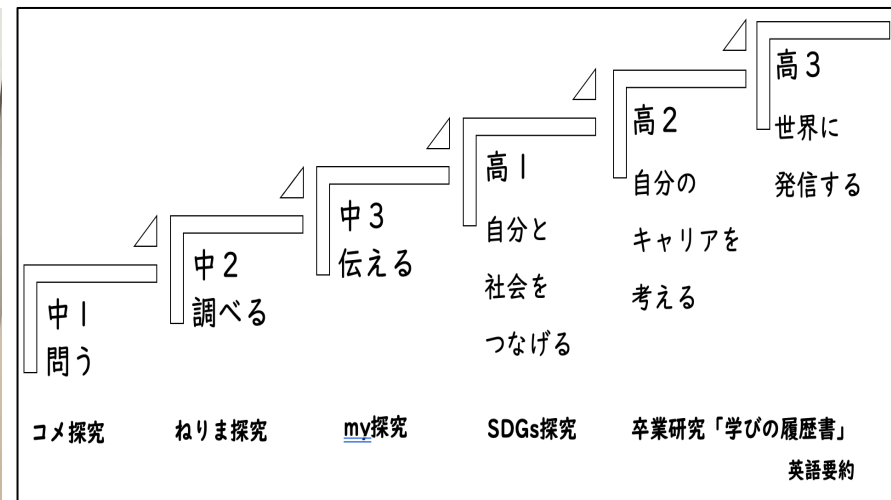
各教科における情報活用能力の指導状況の見える化を通して教科横断的な指導体制づくりの旗振り役を担当。



探究的な学びの支援の全体像



探究の成果物の保存・展示



6年間の探究プログラムの目標と内容

特別活動との連携に関する事例

探究×学校行事の取組事例①

郡上市立郡南中学校

学校行事と地域資源を関連付けた 探究学習

テーマ
探究

行動系

学校行事の体験活動を総合に効果的に位置付け、郡上地域の創生につなげる

各学年の学校行事を、総合の学習過程に位置付け、体験活動の充実を通して探究を深める。

・ 第1学年 郡上研修（18時間）

長良川や郡上の自然・文化の魅力と課題について問いをもち、上流の川や山、地域文化を体験的に調査し、その学びを整理した上で、自分たちにできる実践や地域への発信へとつなげる。

・ 第2学年 宿泊研修（18時間）

長良川に携わる人々や地域の取組について課題意識をもち、海・川・森のつながりや地域の課題を体験的に調査し、その学びを基に地域や企業と協働する取組を構想し、「郡南マルシェ」や発信活動へとつなげる。

・ 第3学年 阪神淡路研修（21時間）

郡上の強みを生かした教育旅行を提案するという課題の下、都市部との違いや企業のSDGsの取組を比較・分析し、その結果を基に教育旅行プランを修正・再構成し、提案として発表する。

※実践は令和6年度のもの

総合に位置付けた学校行事と探究の過程との関係

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
1年 郡上 研修	長良川・郡上の魅力や課題に着目し、「自分たちに何ができるか」という課題意識をもつ	川・山・文化を体験的に調べる（学校行事）	学びを整理し、実践の方向を考える	地域への発信や実践につなげる
2年 宿泊 研修	長良川に関わる人々や地域課題に着目し、「美並に暮らす自分たちに何ができるか」という課題意識をもつ	海・川・森のつながりや地域・企業の取組を調べる（学校行事）	学びを基に協働の取組を構想する	マルシェや発信活動につなげる
3年 阪神 淡路 研修	郡上の強みを生かした教育旅行を提案するという課題意識をもつ	郡上の魅力や旅行企画に必要な情報を集める（学校行事）	都市部との比較から郡上の価値や課題を捉え直す	教育旅行プランとして提案・発表する



郡上研修の様子



「郡南マルシェ」の様子

探究×学校行事の取組事例②

三豊市立 豊中中学校 「Let's enjoy 笑顔はじける僕たちの旅」(第3学年)

テーマ
探究

行動系

修学旅行での農・漁業体験等を通じ、それまでの学習の総まとめを行う

<概要>

1 学年・人数

・第3学年94名全員参加

2 期間

・3泊4日

3 宿泊先

・市内ホテル2泊、
民泊1泊

- ・ 中学校入学から3年生に進級するまでの間、総合的な学習の時間等で実施してきた活動の総まとめとして長崎県南島原市への修学旅行を位置付け。
- ・ 実際にその地域の歴史、農産漁業、文化、人に触れることで、それまでの学習内容等と関連付け、その先の学習への意欲や、自身の生き方についての考えを深めることに繋げることができる。
- ・ 南島原市の一般家庭に宿泊し、農業・漁業等の家業の体験をしたり、寝食を共にすることで、勤労の尊さや協働することの大切さも、実体験を通して学ぶ。



民泊先の家庭は市の観光協会が調整



それぞれの宿泊先の家業を手伝い、学校で学ぶ産業を実体験



学んできたことを自分事としてとらえ、その先の活動や生き方に繋げる

事例出典：農山漁村体験を含む長期宿泊体験の全国事例集の作成（平成30年度文部科学省いじめ対策・不登校支援等推進事業委託業務）
写真引用：南島原ひまわり観光協会HP（南島原市農山漁村体験に関するもの）

探究×学校行事の取組事例③（1/2）

天草市立
御所浦中学校

ふるさと探究からMY探究へ

テーマ探究
マイ探究

行動系

探究との関わりで行事の年間指導計画を再構成

見直し① 行事の実施方法を見直し、地域探究を充実

- 総合で行っていた進路学習、修学旅行の事前事後学習等を見直し、総合の時間の充実など、年間指導計画全体を再編。

見直し② 行事の探究化

- 行事についても、これまでの内容を見直し、生徒の興味・関心を踏まえた課題やねらいを設定するなど、探究的な学習となるよう実施プロセスを見直し。

見直し③ 探究の充実

- ①によって充実した探究の時間のうち、3年生においてはこれまで自身が学んだ事や深めた関心を基に、MY探究として一定の時間をかけて成果をまとめる時間を確保。



事前学習等を踏まえ、実際に地域を訪ねて考えを深める活動を充実

授業時数と取り組み内容の変化

	変更前		
	探究	行事	計
1年	20 ふるさと探究	30	50
2年	25 ふるさと探究	45	70
3年	35 ふるさと探究	35	70



変更後		
探究	学校行事の事前・事後等に行う探究	計
30 ふるさと探究Ⅰ	20 集団宿泊教室4、 <u>世界遺産学</u> （※1）12、キャリア4	50
50 ふるさと探究Ⅱ	20 修学旅行事前・事後11、キャリア2、立志式7（※2）	70
50 MY探究	20 キャリア10、卒業プロジェクト10	70

（※1）天草市の歴史や文化を全員が実際に訪れて体験的に学べるようにした天草市教育委員会の推進事業。市内のすべての小・中学校で実施されている。

（※2）元服に由来し、志を立てることを目的とした学校行事

探究×学校行事の取組事例③（2/2）

天草市立
御所浦中学校

ふるさと探究からMY探究へ

テーマ探究
マイ探究

行動系

探究との関わりで行事の年間指導計画を再構成

集団宿泊教室（1年） ※学校行事当日を除き4コマ

課題の設定	訪れる場所の現状と課題、魅力を知る
情報の収集	芦北町（人口、産業、観光など）について調べる
整理・分析	当日の日程や、班、係を確認してしおりにまとめる
まとめ・表現	集団宿泊教室のふりかえりをする

天草体験学習「世界遺産学」（1年） ※学校行事当日を含め12コマ

事前学習	課題の設定	訪れる場所の現状と課題、世界遺産について知る
	情報の収集	・崎津集落（世界遺産とは、登録の経緯、歴史や文化）について調べる ・崎津集落を取り巻く、河浦町の現状や課題を知る
	整理・分析	当日の日程や、班、係を確認してしおりにまとめる
当日	情報の収集	崎津集落に行って、世界遺産学を学ぶ ・崎津集落の歴史や文化について知る ・世界遺産を守るための取組について知る ・観光客を増やすための工夫について調べる
事後学習	整理・分析 まとめ・表現	世界遺産学で学んだことを、まとめる ・新聞にまとめる ・パンフレットを作成する ・プレゼンテーションを作成する ・崎津集落の取組と御所浦町を比較し、意見交流する

修学旅行（2年） ※学校行事当日を除き11コマ

事前学習	課題の設定	修学旅行の意義を知り、自分の課題を設定する
	情報の収集	旅行先について、調べる
	整理・分析 まとめ・表現	調べたものを整理・分析して、まとめる
当日	情報の収集	旅行先を訪れ、自分の課題について情報を得る
事後学習	整理・分析	修学旅行で学んだことを振り返り、しおりをまとめる
	まとめ・表現	修学旅行先で得た情報を分析し、魅力発信につなげる

立志式（2年） ※学校行事当日を除き7コマ

課題の設定	立志式について知り、立志の言葉を考える
情報の収集	立志の言葉の表現方法を考え、これまでの活動をもと
整理・分析	に、立志の言葉を色紙に表し、文章にまとめる
まとめ・表現	・立志式で自分の決意を発表する ・自分の課題について振り返る

卒業プロジェクト（3年） ※学校行事当日を除き10コマ

課題の設定	地域や学校のためにできることを考える
情報の収集	卒業プロジェクトを実現するために必要な情報を集める
整理・分析	卒業プロジェクトに必要な準備を整える ・必要な道具、物 ・協力が必要な人、事業所等
まとめ・表現	卒業プロジェクトを実行する

探究×学校行事の取組事例④

「探究型インターンシップ」

マイ
探究

行動系

群馬県立高崎女子高校

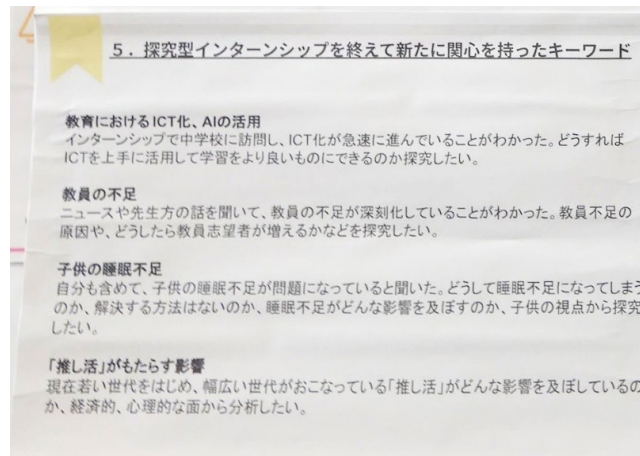
学校・社・官連携 探究コンソーシアム

- ✓ 1年生全員を対象に、探究型インターンシップを3日間実施。
- ✓ 生徒は自分の興味関心に基づいて訪問先を決め、自分で企業等に連絡・交渉して訪問。
- ✓ 会社は、問題解決や探究に最前線で取り組んでいるところと捉え、その取組を実際に経験する場となる。
- ✓ 自身の探究活動（テーマ研究）と関連付けながら社会課題に触れることで、自身の探究活動を発展させる。
- ✓ 成果報告会で自分の探究テーマの要素を検討し、課題を設定し、探究を開始する。

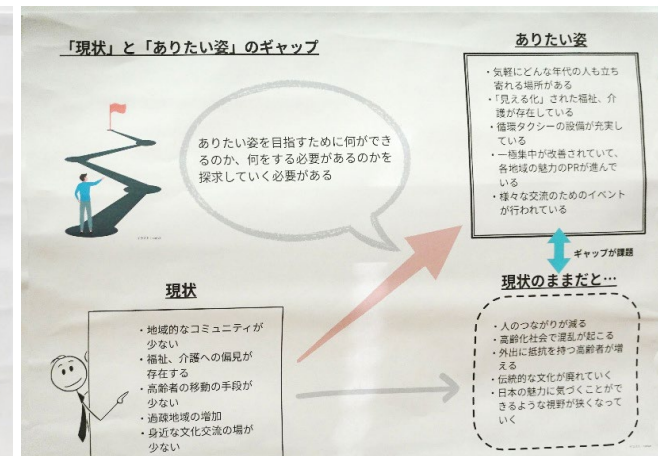
- ✓ ぐんまの中学校・高校・大学の教員、地域を支える企業、官公庁が連携し「自ら課題を設定し解決することを通して、主体的に社会を変えていこうとするぐんまの子どもたち」を育てるプラットフォームを構築。
- ✓ コアプログラムの共有・開発
- ✓ 人材育成ビジョン協議会、合同発表会、探究サミット等の開催。
- ✓ Webページ等を用いた積極的な情報発信を行う。Webページには「高校生インターンシップ 協力事業所一覧」も掲載。



インターンシップの様子



サブクエストからメインクエストを設定し訪問。当日の気づきから探究の課題の要素を挙げ、自分の探究の課題を設定につなげる



自治体による探究型修学旅行の誘致の取組事例

北九州市

「北九州市のSDGs修学旅行2.0」

テーマ探究
マイ探究

行動系

地域ならではの探究型修学旅行の開発と販売による誘致

- 2024年度に、北九州市のSDGs修学旅行等の商品開発促進事業の一環として、「**北九州修学旅行サポートセンター**」を開設。北九州市ならではの歴史等の魅力や社会課題を考える「**修学旅行探究学習プログラム**」の開発を行い、旅行会社への直接販売を行う。さらには、探究学習のテーマ選定や見学先の予約、ワークショップ会場の手配、講師や大学生とのマッチング、精算等、**様々な修学旅行のニーズにワンストップで対応し、学校や旅行会社の負担を軽減**する。
- これまでの修学旅行の誘致は、観光振興を主目的に、宿泊施設や観光関連事業者が行政と連携していたが、「北九州市を訪れる」から「**北九州市で学び・考える**」に方向性を変えたことにより、これまで連携できていなかった**地元企業や組織・団体と連携したプログラム**となった。
- ものづくりを中心とした先進的な企業を訪問するフィールドワークを通じた探究や、地元の大学生とリノベーションの進む地域の「まち歩き」による探究等、**様々なオリジナルプログラムを開発**している。

北九州の修学旅行で得られる 学習の3要素



SDGs

社会問題や環境問題の解決に向けた北九州市のSDGsへの取組を深く学ぶ機会を提供します。

体験型プログラム

体験型プログラムは、実践を通じた学びを提供し、理論だけでは習得できない知識やスキルを身につけることを可能にします。直接的な経験を通して、問題解決能力や自己成長を促し、より深い理解を促進します。

探究学習

生徒自身が学習テーマを設定し、体験を通じて得た知識を基にさらに考察を深めることで、生徒の主体性を引き出し、将来の行動に繋げる力を育みます。

北九州SDGs探究学習プログラム



プログラム SDGs未来都市北九州市で学ぶ

01 先進企業のSDGsへの取組

学習できるSDGs分野



<学びのポイント>
蓄積された産業の歴史遺産を知ると同時に、現在も日本の産業界をリードする、ものづくりの最先端技術や環境問題克服の歴史、SDGsへの取組などを学び、全体セミナーで共有し探究する**フィールドワーク&SDGsセミナー運動型・探究プログラム**。

<キーワード> #産業観光 #SDGs

プログラム例1) 先進的な企業を訪問するフィールドワークを通じた探究

プログラム 新しい地域のあり方を探究

02 デザイン思考の地域創生

学習できるSDGs分野



<学びのポイント>
遊休不動産の見方を変え再編集しエリア価値を高める、北九州市小倉・星崎地区まちづくりについて先駆者に学ぶ。新しい価値創造のあり方を**デザイン思考**で取り組む「まちのリノベーション」について大学生とのまち歩きを通して探究する。

<キーワード> #地域創生 #デザイン思考

プログラム例2) 地元の大学生とリノベーションの進む地域の「まち歩き」による探究